The Japan Association of Radiological Technologists
ネットワーク・ナウ
Network Now
JART情報
https://www.jart.jp
2025 No.589 1/1
発行所　公益社団法人日本診療放射線技師会
〒108-0073 東京都港区三田1-4-28
三田国際ビル22階
TEL. 03-4226-2211　FAX. 050-3153-1519

Headline from JART
2024.10.31~11.3 (Thu.~Sun.)

第1回日本放射線医療技術学術大会開催される！（ハイブリッド開催）

本会（JART）と日本放射線技術学会（JSRT）が合同で、2024年10月31日（木）から11月3日（日・祝）までの4日間、沖縄県宜野湾市の沖縄コンベンションセンターにおいて第1回日本放射線医療技術学術大会（JCRTM 2024）を開催しました。テーマに沖縄の方言で「助け合い」や「協調」を意味する「ゆいまーる」を掲げ、「ゆいまーる ～診療放射線技術の共創～ All Japan Radiological Technology」をスローガンとしました。

大会長を上田克彦会長と白石順二JSRT前代表理事が務め、実行委員長は富田博信副会長と奥田保男JSRT副代表理事が担当しました。プログラムには、第1回大会開催記念企画や特別講演、沖縄県企画、市民公開講座、学術企画、教育講演、JIRAワークショップなど、多彩なセッションが組まれました。前回の熊本大会を踏襲し、本大会においても、一般演題については「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」に基づき、「研究」と「報告」を明確に区分しました。

プログラムとしては、第1回大会開催記念企画をはじめ特別講演が2題、沖縄県企画が1セッション、市民公開講座が1セッション、学術企画が22セッション、教育講演が3題、JIRAワークショップなどが企画され、盛会に開催されました。

大会3日目の11月2日（土）には式典が行われ、白石大会長、上田大会長、JSRT代表理事の石田隆行氏があいさつを行い、衆議院議員の岸田文雄氏、小泉進次郎氏からの祝電も披露され、福岡資磨厚生労働大臣の祝辞が代読されました。さらに来賓として衆議院議員の島尻安伊子氏、沖縄県副知事の池田竹州氏（知事・玉城デニー氏のあいさつ代読）、一般社団法人沖縄県医師会会長の田名毅氏、公益社団法人日本医学物理学会会長の福田茂一氏よりごあいさつを頂きました。

◆開会式

富田博信
実行委員長

◆式典

上田克彦大会長

白石順二大会長

石田隆行氏

島尻安伊子氏

池田竹州氏

田名 毅氏

福田茂一氏

この後、第1回大会開催記念企画「All Japan Radiology の実現に向けて」が行われ、富田副会長と奥田副代表理事の両実行委員長が座長を務め、日本の放射線医療に関わる各団体の代表者が登壇しました。上田大会長は「診療放射線技師の役割と将来」をテーマに講演し、診療放射線技師数の現状や将来予測、JARTが作成した「JART Vision 2040」に掲げた目標、タスク・シフト/シェアの取り組みや放射線診療4団体連絡協議会の活動などを紹介しました。続いて、石田氏は「放射線技術学の進歩発展のために」と題して講演し、学会の概況やAIの動向、JSRTのイノベーション創出への取り組みについて述べました。その後、一般社団法人日本ラジオロジー協会（JRC）代表理事の青木茂樹氏、公益社団法人日本医学放射線学会（JRS）理事長の富山憲幸氏、一般社団法人日本放射線

◆第１回大会開催記念企画

上田克彦大会長

石田隆行氏

青木茂樹氏

富山憲幸氏

山田　惠氏

瀧口登志夫氏

白石順二大会長

科専門医会・医会（JCR）理事長の山田惠氏、一般社団法人日本画像医療システム工業会（JIRA）会長の瀧口登志夫氏が、それぞれの立場から講演を行いました。最後に、白石大会長が「第1回日本放射線医療技術学術大会開催への道のり」と題して、本大会開催を実現するためのJARTとJSRTとの検討、準備、プログラム策定などについて説明し、両会の協働が日本の放射線医療にとって不可欠であるとまとめました。

特別講演は2題設けられ、11月1日（金）には沖縄科学技術大学院大学 神経計算ユニット教授の銅谷賢治氏が「デジタル脳プロジェクトのめざすもの」をテーマに講演し、11月2日（土）には株式会社アクロラドの大野良一氏が「宇宙放射線の観測衛星からフォトンカウンティングCTまで ～新しい放射線イメージングを支える半導体を沖縄から～」と題して講演しました。

◆特別講演１

また初日の開会式後には、緊急報告企画「令和6年能登半島地震への支援活動報告」が行われ、JART副会長の江藤芳浩氏が災害支援体制とオフサイトでの対応について説明し、JART業務執行理事の江端清和氏が石川県庁調整本部での活動内容を報告しました。

◆緊急報告企画

沖縄県企画は11月1日（金）に行われ、北部地区医師会北部地区医師会病院の関口智子氏が、沖縄美ら海水族館からの要請で行った魚類やイルカなどの飼育動物へのX線検査の経験を紹介し、続いて沖縄美ら島財団附属動物病院の植田啓一氏が、動物園や水族館での動物用X線撮影の実際と課題について講演しました。また沖縄独自の取り組みとして、地域に密着した医療の実践や放射線技術の活用事例が紹介され、聴衆から多くの関心が寄せられました。

◆沖縄県企画

市民公開講座では、地元住民を対象に放射線診療の安全性や重要性について分かりやすく解説し、特に、CT検査やX線撮影がどのように病気の早期発見に役立つかが強調されました。この講座では診療放射線技師が活躍する場面を紹介し、市民との交流を深める機会にもなりました。

◆市民公開講座

学術企画では、国内外から集まった多くの演者が最新の研究成果や技術の進歩について発表しました。特に、AIを活用した画像診断の可能性や、被ばく低減技術の開発に関する議論が活発に行われました。また技術者間の交流を促進するため、ポスターセッションやディスカッションが行われ、現場での課題解決に役立つ具体的な知見が共有されました。

教育講演では、若手技師や学生に向けた基礎から応用までの幅広いテーマが取り上げられました。放射線安全管理、画像解析の基本、さらには未来の診療放射線技術の可能性について、実践的なアプローチが解説され、参加者から高い評価を得ました。

また展示エリアでは医療機器メーカー各社が最新の放射線診断装置やソフトウエアを紹介しました。特に、被ばく量を大幅に削減する技術や、診断精度を向上させるための新たなアルゴリズムに注目が集まり、多くの技術者や医師がブースを訪れて製品について質問を重ねました。

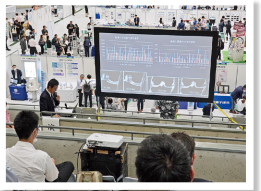
◆学術企画18
（JART放射線被ばく相談員分科会、JART医療被ばく安全管理委員会、JSRT放射線防護部会）

◆教育セミナー7（人工知能）

◆教育講演

◆企業展示

◆ポスター研究



閉会式では、上田大会長と白石大会長がそれぞれあいさつし、今回の大会が両団体にとって大きな一歩となったことを強調しました。特に「ゆいまーる」の精神を通じて、日本全国の放射線医療従事者が一丸となり、医療の質を向上させるための取り組みを続けることを呼び掛けました。大会参加者は2,600人を超え、盛会のうちに幕を閉じました。

◆閉会式

奥田保男
実行委員長

次期開催の福井県
診療放射線技師会
村中良之大会長

次期開催県への鐘の引き渡し

2023年度 永年勤続表彰者

2023年度の永年勤続表彰者が発表されました。おめでとうございます。

50年勤続表彰

■北海道
板東道夫
本波秀嗣
勝浦秀則
村屋　保

■宮城県
瀧谷吉弘

■埼玉県
小川　清
小島精一

■東京都
岡芹孝行
葛西一隆
鮏川幸雄
江島光弘
北村善明

■長野県
宇治節夫

■石川県
丑谷健次

■福井県
柴田英和

■静岡県
小池澄男

■愛知県
藤川清治

■岐阜県
井戸靖司
畑佐和昭

■京都府
亀山　一
小谷　明

■奈良県
高橋充生

■兵庫県
大澤英生

■岡山県
三宅講二

■鳥取県
平田吉春
西尾　剛

■島根県
岩﨑一人

■徳島県
河田明男
滝　健次
鎌田茂弥
渡辺広篤
後藤田省吾
播磨　孝

■高知県
田原徳建

■福岡県
近藤正美
青木　豊
堤　憲信
有吉秀樹
安高純子
荒木精治
山内成身

■長崎県
松川　力

■大分県
久保　剛

■宮崎県
栫井文明

■鹿児島県
大久保光男

計45人

30年勤続表彰

■北海道
及川貴光
加藤哲史
江口正裕
竹内　岳
北市雅子
安田浩司
山﨑理衣
後藤啓司
神原　篤
小林由和
樋口健太
梅津　永
岡崎正己
篠塚元洋

■青森県
赤間　勇
石倉牧人
齊藤哲宏

■岩手県
早川　勧
菊池　充

■秋田県
赤川映子
柴田幸央
田中義春
湯瀬幸訓
木谷弘幸

■宮城県
清水智大
立石敏樹
古川　豊
伊藤祥穂
坂元健太郎
千葉朋浩
小野寺義晴
高橋　徹
我妻　健
鈴木　拓
本間明徳
佐藤　信

■山形県
皆川靖子
齋藤　亮

■福島県
樵　勝幸
高橋　誠
齋藤律子
本田智久
阿部直人
有松　忍
本田清子
高橋克広
工藤靖之

■新潟県
大矢隆章
青柳　裕

■栃木県
中野繁明
谷田部克浩
大隅久人
大川公利
木村和弘
永見　健
江連真一
佐藤裕厚

■茨城県
小仁所圭子
齋藤哲也
新藤雅司
小澤篤史
石森文朗
阿部八千代

■群馬県
星野佳彦
林　圭治
千川重光
新藤泰子
齋藤直樹
篠原恵子

■埼玉県
藤田春光
磯目昌彦
青木俊夫
城間正男
林　哲雄
古山康夫
黒谷淑子
小林　剛
庭田清隆
大塚忠義
大森正司
荒川　昇
清水　亨
亀山　晃
近藤忠晴
矢﨑一郎
大林　勲
若林康治
駒﨑和博
長谷部和仁
間山金太郎
蓮見眞一郎
田嶋陽一
花房哲雄
髙村明宏
三浦　亘

■千葉県
中屋良宏
伊藤洋一
有岡政輝
原　啓
川城　修
小野佳弘
越智茂博
鎮目直行
里見　力
遠藤健太郎
加藤英幸
加藤悟志

■東京都
武田聡司
野口幸作
稲葉玲子
福田武俊
木村　聡
小島秀雄
黒田奈美子
髙橋潤一郎
武田　寛
原子　満
髙林正人
関　のりこ
野口景司
森川貴之
中島潤也
渡邉貴裕
多賀谷　靖
菊地博敦
野原　賢
菊池好子
山下晃司
佐藤　浩

■神奈川県
児玉裕治
赤松英雄
小野欽也
引地利昭
林　進一
田中秀和
福田　修
飯塚芳弘
藤田芳明
藤澤宏信
田島隆人

■山梨県
相川浩史

弓削　誠
玉川　勝也
前田　由紀

■長野県
五味　勉
石川　雅英
松倉　正幸
佐々木　祥之
足立　泰隆
木藤　善浩
中嶋　哲雄
大久保　宗一
石曽根　弘
松浦　哲也
森泉　力

■石川県
江戸　伸一
西野　博美
川邊　順正
今村　正
山本　治樹
武田　悟
三ツ出　徳子
井坂　雅人
南　博之

■富山県
新鞍　一博
岸　正範

■福井県
木村　幸治
北野　陽一

■静岡県
永島　暁人
田沢　範康
安藤　哲人
井上　義久
永田　豊明
古宮　泰三
望月　良倫
小林　睦
杉村　正義
榛葉　豊
川合　宏明
小林　秀行
渡邉　剛彦

■愛知県
西川　彰人
安井　真由美
池田　高広
上手　美鈴
三浦　貴
杉浦　公彦
原田　博文
石原　茂
成瀬　隆行
甲村　幸幹
辻井　重吉
髙村　マキ
佐藤　保
横山　誠
水口　敬
服部　信哉
大瀬　英是
峯田　崇
加藤　貴彦
神野　希佳

■岐阜県
坪内　隆将
岩田　和直
平原　千景
石川　雄治
畑中　信吾
可児　和也
中舎　誠
磯村　健志
小林　修治
纐纈　和人
大塚　充実
福田　武
伊藤　信行

■三重県
大松　秀規
安本　浩二
安藤　勉
北出　明
山﨑　圭三
山下　剛
岡部　浩之
井上　純子

■滋賀県
平田　誠
新田　武
南　秀樹
仁木　純司
瀧沢　保
野間　和夫
上久保　賢二
川嶋　勇次

■京都府
田和　秀信
皿谷　弘樹
辻本　武志
山川　佳弘

■奈良県
澤井　一郎
松本　光生
倉本　三樹
芝野　建二

■和歌山県
南本　嘉弘
岩井　計成
那須　満
上村　晃三
新谷　成令
楠本　章博
宮﨑　雄司

■大阪府
野口　真
薮井　隆一
内田　幸司

■兵庫県
山本　由希
高井　夏樹
後藤　博彰
後藤　和久
足立　善樹
村山　直弘

■岡山県
香川　芳徳
藤田　卓史
赤木　耕平
髙越　浩一
松本　浩二
豆原　純子

■広島県
武居　昌一郎
守本　京平
瀬戸　恒朗
田村　隆行
高木　裕司
古西　泰隆
楠　貴宏
松岡　洋矢

■鳥取県
田熊　晋

■島根県
岡本　浩幹
杉原　加誉子
栗山　靖之
山田　正雄
小畑　尚史

■山口県
藤井　俊年

■徳島県
戸田　佳史
岡本　哲也
中川　正樹
田中　達男
大西　多喜夫
福井　恵美
桑島　浩
福井　義治
齋藤　央
佐野　万博
江川　英志
天野　雅史
荒井　俊也
横内　義憲
髙島　宏輔

■香川県
山村　憲一郎
大森　義則
松村　宣良
坂本　吉伸
松本　昌子
金山　雄一
釣井　学
飯塚　明寿
立本　秀樹

■愛媛県
渡部　浩司
花岡　孝行
岡﨑　伸也
藤井　哲也
増原　晃

■高知県
小笠原　光孝
市川　邦雄
三好　裕司
岡村　治郎
佐々木　俊一
岡本　彰史

■福岡県
小林　幸次
小宮　勲
中村　秀憲
長尾　眞弓
福田　仁
松崎　静信
奥野　元
森吉　小織
川原　善行
宮田　憲明
井上　英一
藤本　啓司
梨子木　一高
酒井　亨
大井　邦治
田代　信司
山添　敏幸
山口　広之
山口　誠二
内田　千穂
森　一宏
富山　隼
松岡　利明
井山　俊之
門本　康二
利根　輝紀
讃井　憲一
兵藤　啓一郎
大浦　弘樹
江田　美穂
石田　隆人
古賀　実恵子

■佐賀県
千綿　直也

■長崎県
横山　貴央
髙見　晋弘
石山　雄一
木原　茂人
中島　秀喜
増田　雅寿
奥野　浩二

■大分県
西村　賢一
江川　健二
瑞木　恵一
櫛野　恭治
奥塚　晋司
川村　倫子
城生　朋顕
豊本　隆章

■熊本県
豊成　信幸

■宮崎県
児玉　博和
齋藤　洋一郎
田上　直文
川野　浩志
片岡　章勝

■鹿児島県
瀬戸口　勲
山口　敏弘
山本　秀明

■沖縄県
嘉手納　行宏
玉城　真規
宜保　健
岩狭　悟司
知念　修
紺野　能稔

計 373人

社会活動表彰（江間賞）ならびに学術奨励賞受賞者

本会表彰規程より、江間賞は、前年度の社会活動カウントの上位取得者で社会活動の内容などが優れている者とし、地域性を考慮して特に優れている者10人以内に授与されることになっています。

また学術奨励賞は、積極的な自己研鑽（けんさん）により診療放射線技師としての資質向上に努め、医療および公衆衛生の普及および向上に貢献した者に授与されることになっています。対象者は表彰を受ける前年度の本会生涯教育カウントの取得上位者となっています。

受賞者は下記の通りです。おめでとうございます。

なお、本会表彰規程により、授賞式は第1回日本放射線医療技術学術大会（第40回日本診療放射線技師学術大会）〔沖縄県宜野湾市〕において執り行われました。

江間賞	学術奨励賞
川口　裕二	二渡　智英
阿部　美津也	坂口　右己
佐藤　直彦	三川　良尚
川勝　泰輔	川野　真吾
舟田　悟	春木　裕久
辻村　恭平	佐々木　陸海
横町　和志	山下　文嘉
藤下　由美子	中村　仁志
高内　孔明	増田　光浩
小林　勝宏	髙橋　克広

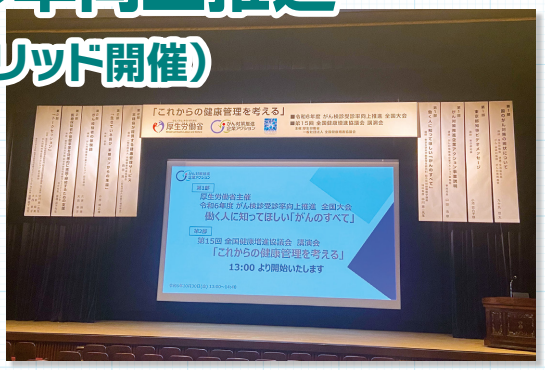
（順不同）

江間賞受賞者の方々

学術奨励賞受賞者の方々

令和6年度 がん検診受診率向上推進全国大会 参加報告（ハイブリッド開催）

広報委員会　岩村 航平



2024年10月30日（水）、ニッショーホール（日本消防会館）で行われた令和6年度がん検診受診率向上推進全国大会に、日本診療放射線技師会として参加致しました。本大会は、厚生労働省が主導する「がん検診受診率向上推進プロジェクト」の一環として、全国の企業や医療機関が連携し、がん検診の受診率向上と早期発見の重要性を広く推進することを目的としています。大会は、会場とオンラインのハイブリッド形式で開催され、厚生労働省のあいさつ、東京都知事からのビデオメッセージ、がん対策推進企業アクション事業の説明を皮切りに、東京大学大学院の中川恵一先生による「働く人に知ってほしい『がんのすべて』」と題した講演が行われました。がんの基礎知識から予防・早期発見の重要性に至るまでの包括的な内容で、働き世代にとってのがん検診の必要性が強調されました。また後半の講演会では、がん経験者の体験談や「末期ガンからの生還」をテーマにした講話があり、がんと向き合う姿勢や治療支援に関する意識が深まりました。

本大会を通じて、日本診療放射線技師会として、

1. 働き世代へのがん検診受診率向上の啓発強化
2. 受診しやすい環境の整備
3. 安全・安心の医療の提供

――を実践していくことが重要であると考えます。本大会で得た知見を基に、日本診療放射線技師会は引き続きがん検診受診率向上に向けた啓発活動に努め、地域社会と協力し、住民が安心して検診を受けられる環境づくりに尽力したいと思います。

一般社団法人長野県診療放射線技師会
創立75周年記念式典・祝賀会 開催報告

一般社団法人長野県診療放射線技師会
常務理事　竹内 有希

2024年11月16日（土）、まつもと市民芸術館とホテルブエナビスタで長野県診療放射線技師会創立75周年記念式典と祝賀会が開催されました。式典では、秋の叙勲で瑞宝双光章を受賞された赤堀正和名誉会員と、長野県診療放射線技師会 特別功労賞の会員4人の表彰式が執り行われました。記念講演では、日本診療放射線技師会副会長の富田博信先生より「診療放射線技師の展望」をテーマにご講演いただきました。祝賀会は57人の出席があり、近年の長野県診療放射線技師会の活動内容をまとめた前島副会長のナレーション付きスライドショーや、恒例の日本酒飲み比べの催しがありました。各界の皆さまとの交流や茨城県から珍しいお酒の差し入れもあり、楽しい歓談の時間となりました。

開催に当たり、信州大学医学部 画像医学教室の藤永康成教授、自由民主党の畦元将吾さまからご祝辞を、関係各界から祝電も頂きました。ご多忙にもかかわらず、ご出席いただいたご来賓の皆さま、さまざまにご尽力いただいた皆さまに心よりお礼を申し上げます。

1949年長野県エックス線技師会創立当時の74人の先輩方はどんな展望を持っていたのだろう、今から75年後はどんな様子だろうと想像しています。先輩方が代々築いてこられたこの基盤で、私たちが活動できていることに感謝致します。受け継がれてきたこの長野県診療放射線技師会を未来の皆さまへ承継できますように、会員の皆さまや関係者の皆さまのご協力の下、今後とも精進致します。

瑞宝双光章を受賞された
赤堀正和さま

特別功労賞を受賞された皆さま

祝賀会の様子

2024年度
第2回骨関節撮影分科会セミナー 開催報告（Web開催）

骨関節撮影分科会

2024年11月20日（水）、同年6月に京都で実施した対面セミナーのプログラムから特に好評だった2つの演題を厳選し、第2回骨関節撮影分科会セミナーをWeb形式で開催しました。当日は170人の方々にご参加いただき、大変盛況のうちに終了しました。

最初に、分科会委員の安藤貴法氏が「膝関節撮影」に関する講演を行いました。基礎知識として、膝関節の解剖や略語の説明から始まり、変形性膝関節症の進行過程や臨床画像における特徴を、具体的な画像を用いて詳しく解説しました。撮影方法については、特に立位撮影に重点を置き、ポジショニング理論や注意点を取り上げました。また医師による撮影画像の観察や評価ポイントについて、病期分類と関連付けて説明されました。また昨今注目されている立位側面撮影についても、撮影技術や実践的なコツについて解説され、再撮影時の修正方法についても丁寧な説明が行われました。さらに立位撮影に役立つ補助具の紹介もあり、現場で即実践可能な具体的な内容が豊富に提供されました。

続いて、分科会会長の安藤英次氏が「足関節撮影」に関する講演を行いました。従来の足関節撮影に加え、高齢化に伴う変性疾患の増加に対応するため、立位荷重撮影の重要性について説明しました。非荷重撮影と荷重撮影の画像を比較しながら、その必要性を解説するとともに、計測評価に関する詳細な説明も行われました。また見る機会が少ない立位荷重時の足関節動態画像やトモシンセシス画像の提示もあり、非常に興味深い内容となりました。さらに過去のハンズオンセミナーでも作成した立位荷重撮影時に活用できる補助具の紹介も行われ、実務に直結する内容が多く提供されました。

本セミナーでは、立位荷重撮影の実務に即した情報が豊富に提供され、参加者アンケートでも高い評価が得られました。今後も、現場で役立つ情報を発信する活動を続けてまいります。

レントゲン週間 イベント開催される

11月2日～8日は レントゲン週間

本会では、1895年11月8日のW. C. レントゲン博士によるX線発見を記念し、毎年11月2日～11月8日の一週間を『レントゲン週間』と制定しています。

この『レントゲン週間』にちなみ、放射線の専門家として正しい知識を国民に伝えるとともに、私たちの仕事を知っていただくためのイベントとして、本年度も各県（診療）放射線技師会の協力を得て、各地でさまざまなイベントが開催されました。

NIIGATA

すこやか・ともしびまつり2024

- **日　　時**：2024年9月14日（土）・15日（日）
- **開催場所**：アオーレ長岡（長岡市役所、長岡市大手通1）
- **参 加 者**：会員25人、一般417人（ブース来訪者数）

「すことも」は子供から大人まで、障害のある人もない人も、誰もが楽しめる年に1度のお祭りです。参加者一人一人が発見・気付きを得られるような体験などを通し、広く市民に福祉と健康づくりへの理解を呼び掛けるためのイベントです。本会もその趣旨に賛同し、開催当初よりブースを設け参加し、医療放射線への理解ならびに職能の啓発活動に努めてきました。また県内に2校ある大学生の方々にもボランティアとしてご参加いただき、学校間の交流も深められました。

（新潟県診療放射線技師会　社会事業部部長　鈴木　隆道）

ISHIKAWA

第45回健康づくりフェア

- **日　　時**：2024年9月28日（土）・29日（日）
- **開催場所**：金沢健康プラザ大手町
- **参 加 者**：運営4人（受付）、会員8人、一般251人（両日）

超音波式骨密度測定を行い、本会の活動をアピール

しました。
・放射線被ばく相談
・パネル展示
・原子力災害対策活動ポスター展示
（石川県診療放射線技師会）

SHIGA

2024おおつ健康フェスティバル

■ **日　　時**：2024年10月6日（日）
■ **開催場所**：明日都浜大津
■ **参 加 者**：運営22人、会員21人
・骨密度測定コーナー：451人
・乳がん相談コーナー：260人
・放射線に関する相談コーナー：4人
・パネル展示コーナー：315人
　骨密度受付時にアンケートを行い、ボールペンを配布しました。
（滋賀県診療放射線技師会　井関 忠弘）

GUNMA

リレー・フォー・ライフ・ジャパン2024ぐんま

■ **日　　時**：2024年10月12日（土）・13日（日）
■ **開催場所**：ALSOKぐんま総合スポーツセンターふれあいグラウンド
■ **参 加 者**：会員20人、一般10人
　2024年10月12日（土）・13日（日）に開催された「リレー・フォー・ライフ・ジャパン2024ぐんま」に「群馬県診療放射線技師会チーム」として、会員20人とそのご家族10人が参加しました。リレー・フォー・ライフは、がん患者さんやそのご家族を支援し、地域全体でがんと向き合い、がん征圧を目指すチャリティー活動です。今年もチームテントでレントゲン週間イベントを行い、被ばく相談Q&Aと診療放射線技師の仕事についてのパネル展示、乳癌触診モデルを使った触診体験、関連グッズ（クリアファイル・ボールペン）を配布しながらレントゲン週間のPR活動を行いました。乳癌触診体験を行ったためか、ブースには多くの女性や親子が寄ってくださいました。その中で「病院では検査や被ばくのことが心配になっても、なかなかタイミングや勇気がなくて聞けない」「もっと検診の大切さを広めてほしい」など、貴重なご意見を聞くこともできました。イベントを通して、診療放射線技師の仕事や役割を周知する活動の大切さを実感することができました。またたくさんの方と交流でき、楽しい時間を過ごすことができました。
（群馬県診療放射線技師会　渉外広報部　内村 清香）

INFORMATION

第2回 第41回日本診療放射線技師学術大会

福井への道 Go To FUKUI

副大会長　立石 敏樹
（公益社団法人福井県診療放射線技師会 副会長）

福井大会会場のご紹介

福井への道、第２回は会場および福井駅周辺についてご紹介致します。

とはいうものの……。福井へ赴任してまだ２年目で、観光客と同じ状態ですが、出張や帰省のたびに新しくなった福井駅周辺を利用するため、実は、福井県民よりも詳しいかもしれません。

第41回日本診療放射線技師学術大会は、2025年９月12日（金）から14日（日）までの３日間、北陸新幹線の敦賀駅までの延伸（2024年３月開業）に合わせて新しくなった福井駅を横断するかたちで、東口の**福井市地域交流プラザ（AOSSA）**を中心に、複数の会場を使用して開催致します。

その他の会場としては、西口の複合施設**ハピリン**にある**ハピテラス**や**ハピリンホール**、**ドームシアター**などを使用します。これらの施設は、飲食店や多目的ホールなどの商業施設としても利用されているため、一般の方と行き交う場面が多い学会となることでしょう。商業施設では、お土産どころの他、日本酒の立ち飲みや、**おろしそば・ソースかつ丼**など、福井県産のさまざまな味覚を堪能いただけます。そして福井駅周辺の**恐竜スポット**を探しつつ、学会へご参加いただければと思います。また皆さまが複数会場を移動しながら駅周辺施設を利用することにより、「診療放射線技師」という職業のアピールにもつながるかと思います。

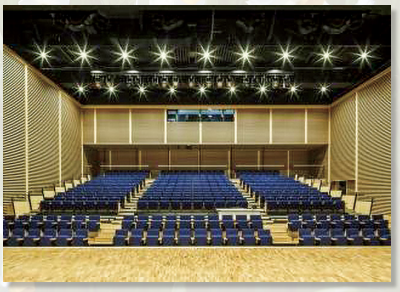
その他、地味な県ですが、**永平寺**、**一乗谷朝倉氏遺跡**など見どころはたくさんあります。観光としてはなかなか訪れない県かと思いますが、ぜひこの機会に、**“恐竜王国”福井**へ足を運んでみてはいかがでしょうか？ いろんな意味で「地味にすごい」ことを発見する良い機会かと思います。

皆さまの多くのご参加を期待し、さまざまな企画を準備しております。どうぞ、この機会に福井へ訪れてみてはいかがでしょう！

AOSSA〔アオッサ〕外観
〔福井市ホームページより〕

福井県県民ホール（AOSSA）
〔福井県県民ホールホームページより〕

福井駅西口広場（恐竜広場）
※奥の建物はハピリン
〔福井市公式観光サイト「福いろ」より〕



ハピリンホール
〔福井市公式観光サイト「福いろ」より〕

第41回 日本診療放射線技師学術大会

41st Japan Conference of Radiological Technologists

放射線技術のイノベーション

～期待される診療放射線技師の役割に応えよう～

2025.
9/12（金）▸14（日）

会場　AOSSA、ハピリン他
［現地＋オンデマンド配信］

https://www.kwcs.jp/jcrt41/

会長　上田 克彦（公益社団法人 日本診療放射線技師会　会長）

大会長　村中 良之（公益社団法人 福井県診療放射線技師会　会長）

主催：公益社団法人　日本診療放射線技師会
共催：公益社団法人　福井県診療放射線技師会
後援（予定）：厚生労働省、公益社団法人 日本放射線技術学会、福井県、福井市

大会事務局
公益社団法人福井県診療放射線技師会
〒910-0851　福井県福井市米松1丁目16-31　NTビル2階
TEL：0776-57-0696　FAX：0776-57-0699
E-mail：41jcrt@gmail.com

AIの利用について思うこと

シリーズ・連載 series serialization　五感 —— five senses

皆さんご存じの通り、AIの進化は医療分野に革命をもたらしています。現在、特に注目されているのは大規模言語モデル（LLM）やマルチモーダルAIの発展です。これらは医療文献の要約や画像診断支援に活用され、効率的な画像診断レポートの作成に貢献しています。AIによる画像認識技術も向上し、腫瘍や骨折の検出精度が専門医に匹敵するレベルに達していると報告されています。

一方で、AIの医療応用が進む中、倫理的な問題や規制の必要性も高まっているのも事実です。診療放射線技師としては、AIシステムの透明性やデータの信頼性、適切な取り扱いに対する意識を持つことが重要と指摘されています。

将来的には、量子コンピューティング技術との融合により、新たな医用画像処理や放射線治療計画の最適化が進むと考えられます。

私たち診療放射線技師もAIと協調しながら、人間ならではの判断力やコミュニケーション能力を生かし、高度な医療サービスを提供する必要がありますね。積極的に最新技術を学び、活用していく姿勢が重要といつも考えている今日この頃です。

（文責：髙橋　俊行）

INFORMATION

2月の講習会などスケジュールのご案内

- ■ がん医療の均てん化に向けた放射線治療セミナー（基礎編）：Web開催　2025年2月　2日（日）
- ■ オートプシー・イメージング（Ai）症例報告会：Web開催　2025年2月　2日（日）
- ■ 骨関節撮影分科会セミナー：Web開催　2025年2月　5日（水）・13日（木）
  （5日開催と13日開催とで申込期限が異なりますのでご注意ください。）
- ■ 放射線被ばく相談員フォローアップ講習会：Web開催　2025年2月16日（日）
- ■ 放射線取扱主任者定期講習：東　京　2025年2月21日（金）

■ 告示研修（実技研修）／業務拡大に伴う統一講習会／診療放射線技師基礎講習 基礎技術コース（会場型）：
本会ホームページの「新着情報・お知らせ」またはJART情報システム（JARTIS）をご参照ください。

【e-ラーニング（ストリーミング方式）】

■ 放射性医薬品取り扱いガイドライン講習会（オンライン）	2025年2月1日（土）正午まで申し込み受け付け ※2025年2月5日（水）午前0時から3月5日（水）午後11時59分まで開催（予定）。 ※確認試験もオンラインで実施致します。
■ 告示研修（基礎研修）	2026年3月31日（火）午後11時59分まで申し込み受け付け ※お申し込み成立の日から告示研修終了まで何度でも視聴いただけます。
■ 人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針オンラインセミナー	2027年3月31日（水）午後11時59分まで申し込み受け付け ※お申し込み成立の日からセミナー終了まで何度でも視聴いただけます。

■ オンラインセミナー（在宅）：本会ホームページの「新着情報・お知らせ」またはJART情報システム（JARTIS）をご参照ください。

※このご案内の公開時に、定員に達して申し込みができない講習会・セミナーがある場合がございますのでご了承ください。

INFORMATION

本会への入会手続きについて（お知らせ）

ホームページからでも、書類でも・・・本会への入会は、次のいずれかの方法によりお手続きいただけます。

❶ 本会ホームページ（*https://www.jart.jp*）右上の“新規入会”をクリック
❷ 書類のご提出

書類のご提出によるお手続きの場合は「申込書」を本会事務局までご請求ください。
TEL：03-4226-2211　E-mail：info@jart.or.jp

ぜひ周りの非会員の方に、お知らせください。

事務所案内
執務時間：月曜日から金曜日の午前9時30分より午後5時30分まで。
ただし、土曜、日曜、休日、祝日、創立記念日（7月13日）および年末年始（12月29日～1月3日）は執務致しません。